

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	小規模多機能ホームひらすまあらいべ児童発達支援事業所		
○保護者評価実施期間	～		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0名	(回答者数) 0名
○従業者評価実施期間	令和6年10月18日 ～ 令和6年11月8日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 12名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多くのスタッフが打ち合わせに参加して、個々の利用者に合わせた支援を行っている	支援開始前に必ず職員間で打ち合わせを行い、全員で支援内容等の確認を行っている。気づいた事など、すぐに共有し改善に繋げている。	打ち合わせに参加していない職員も、打ち合わせ内容を把握できるよう、話し合った内容は必ずカルテやスタッフ間ノートへ記載して全員で共有していく。
2	地域に密着している	ご近所の方や地元自治会や商店(床屋、魚屋、電気屋など)との交流、関わりがある。地域の納涼祭や獅子舞に参加している。施設のもちつきや避難訓練の際は、地域住民にも参加を促している。	地域を巻き込んだイベントを実行していく。
3	利用者が少人数であり、細やかな支援を提供でき、希望がかないやすい	一人一人の状態に合わせて声掛けや支援を行い対応出来ている。近くで見守り寄り添っている。	日々変化する体調や思いに対応できるよう、より一層個別ケアに取り組んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	障がいのない子どもの利用、来所が少ない	以前は小中学生の授業の一環として子ども達が訪れていた。ここ数年は全くなくなってしまった。障がいの特性により、外出援助が難しい利用児がいる。	近所の書道教室や近くの小学校へ施設内での活動を提案し、子ども達が来やすい事業所を目指す。公園など様々な人の居るところへ積極的に出かけることで交流の機会を持つ。イベント時は、幅広く声を掛けて子ども達にも参加してもらう。
2	児童は避難訓練に参加出来ていない	障がいの特性があり、避難訓練を行う事でパニックを起こす可能性が考えられたため、児童の利用していない時間に避難訓練を行ってきた。	今後は、日中を想定した避難訓練も検討する。実施する場合は、家族と実施方法について相談し、可能なら学校での避難訓練の様子も確認してから安全面に充分配慮した上で行う。
3	保護者の方とのコミュニケーションが不足している	送迎時のバタバタしている時にしか接する機会がない。	個別支援計画作成時には、できるだけ時間をかけて話し合うようにする。